

創造、都市大 16強入り

主力の執念逆転呼ぶ 都市大女子

コートに立つ都市大塩尻の選手たちの表情には鬼気迫るものがあった。第1セットを先取されて迎えた第2セット。このセットも先行を許す苦しい展開に、闘志をむき出しに食らいついた。その中心にいたのがレフトの中島優花とセンターの堀内玲穂の3年生2人で、逆転勝利を手繰り寄せる原動力となった。



勝因は「自分が決める」という強気な姿勢



【都市大塩尻-三重】第2セット、強烈なスパイクを放つ都市大塩尻の中島

「自分が決める」という強気な姿勢が、攻撃の好機がなかなか巡ってこなかった中、第1セットは鳥一先生(岡田隆安監督)からも優花が決めないと勝てないと言われ、自分でもそう言い聞かせて臨んだ」という第2セット、プロックが2枚ついている状況でもトスを呼び込み、冷静にコースを選びながら強烈なスパイクをたたき込んだ。圧巻だったのが13-13からのブロックポイントを含む3連続得点。エースとしての意地だった。

3年生がより一層、頼もしさを増してきた。次戦に向け、中島は「もっと自分がチームを引っ張りたい。もっとボールを呼びます」と言い切った。(山浦雄一郎)

第3セット、得点が決まるたびに喜びを爆発させる都市大塩尻の選手たち

第68回全日本バレーボール高校選手権大会(春高バレー)は6日、東京都の東京体育館で男女の2回戦各16試合を行った。県代表の男子・創造学園は郡山北工(福島)を2-0のストレートで破り、女子・都市大塩尻は三重を2-1で下して、ともに16強入りを決めた。7日は男女とも3回戦と準々決勝がある。創造学園は閉智(和歌山)と、都市大塩尻は文京学院大女(東京)と3回戦を戦う。(山浦雄一郎)

春高バレー 全国大会 2回戦

創造学園は2セットとも圧倒的な力の差を見せた。第1セットは序盤に6連続得点

を奪うなど早々に主導権を握り、その後もブロックでリズムをつくって25-13で先取した。第2セットはセンターのエバデダンやライトの池田を中心に連係の取れた攻撃が機能

し25-15で完勝した。都市大塩尻は粘り強さを発揮した。第1セットは立ち上がりから主導権を握られて18-25と落としたものの、第2セットはセンターの堀内、レフトの中島の活躍で奪い返した。最終の第3セットは序盤に先行を許しながらも、ブロックで圧力を掛けて相手ミスを誘うなど中盤以降に流れを引き戻して競り勝った。

第2日の結果

男子	創造学 25-13	郡山北工
女子	都市大 25-18	三重
	25-22	25

■この記事・写真等は市民タイムスの許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会